

かんげんさい
管絃祭

お祭り



御鳳輦

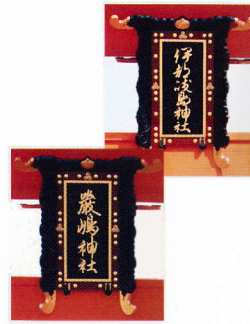
旧暦6月17日の夕刻さいこうに齋行されるお祭りで、河川や邸宅内の苑池に船を浮かべて管絃を奏する当時都で盛んに行われていた遊樂を、平清盛公が宮島に移したのが始まりといわれる。当社では遊樂ではなく、御神慮ごしんりょを慰める為に行われる。先ず御本社で出御祭しゅつごまつりが齋行され、和船3隻を繋ぎ合わせて屋形をしつらえた御座船ござせんに御鳳輦ごほうべんを移し管絃を奏する。御座船は阿賀あが(呉市)と江波えは(広島市)の方々が漕ぐ3隻の漕ぎ船に曳かれて、地御前神社ぢごぜんじんじゃ、長浜神社ながはまじんじゃ、大元神社おほもとじんじゃで祭典し、大鳥居おほとりいをくぐって客神社きやくじんじゃで祭典、その後御本社かんごもとに還御される。



御座船

おとりい 大鳥居 (重要文化財)

現在のものは平安時代から数えて8代目にあたり、明治8年(1875年)7月再建。高さ16メートル、棟の長さ24メートル、両部造りりょうぶぞうりで主柱おもぼしらは社殿から向って見て右側宮崎県、左側香川県の楠が使われ、全体に丹塗にぬりを施している。屋根は檜皮葺ひのかわぶきで袖柱も同様。額面は有栖川宮熾仁親王の御染筆あきがわのみやまことで、沖側が「巖嶋神社」、社殿側「伊都岐島神社」と書かれている。



ほうこく ごじゅうのとう 豊国神社と五重塔 (共に重要文化財)

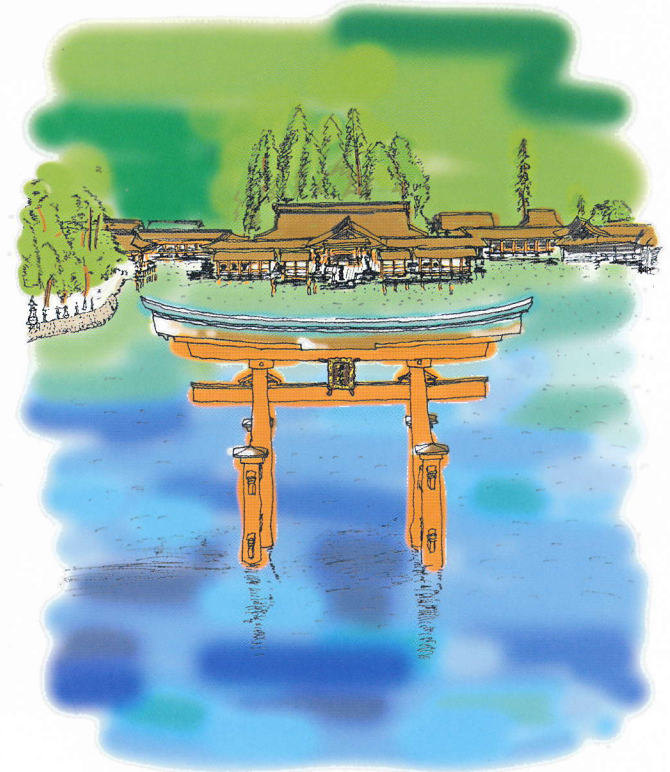
豊臣秀吉公が、戦没将士を慰霊するために天正15年(1587年)に発願はつがんし、安国寺恵瓊あんこくしえいけいに命じ建立した本瓦葺入母屋造の大経堂である。

秀吉公御逝去後は、天井の板張りや建物の外構など完成を見ないまま現在に至る。その広さから俗に千畳閣と呼ばれ親しまれてきた。明治初年の改革で閣内の佛像だいがんを大願寺に遷し、明治5年に秀吉霊神を祀り豊国神社と改称した。隣にある五重塔は応永14年(1407年)建立。総高約27メートル、丹塗にぬりで屋根は檜皮葺、和様わようと唐様の折衷様式である。この塔の心柱しんぼしらは、下まで達しておらず二層目で止まっている。



安芸国 一の宮 世界文化遺産

巖島神社





ほうもつかん

宝物館 (登録有形文化財)

神社廻廊出口の正面にあり、当社所蔵の宝物など美術工芸品の一部が展示されている。



厳島神社社務所

〒739-0588 広島県廿日市市宮島町1-1
TEL:0829-44-2020
FAX:0829-44-0517

能舞台 (重要文化財)

当社の能は、厳島合戦の後に毛利元就もうりもととなりが京都から観世太夫かんぜだゆうを招いて神前に奉納したのが始まりで、現在の能舞台は延宝8年(1680年)11月、浅野綱長あさのつなながによって再建されたものである。特色として笛柱ふえしらが独立している。毎年4月16日からの3日間は神能が行われる。



反橋 (重要文化財)

御鎮座祭ごちんざさいなど当社の重要な祭事にあたって、勅使ちよくしあるいは上卿職じょうけいが参向した折りに、橋の中央に階段のようなものを設けて渡られた。このことから別名「勅使橋」ともいう。



主な年中行事

毎月1日 月旦祭
17日 月次祭

- | | |
|-----------|--|
| 1月 1日 | 御神衣献上式
歳旦祭 (舞楽あり)
振鈴 |
| 5日 | 地久祭 (舞楽あり)
振鈴、甘州、林調、抜頭、還城楽、長慶子 |
| 20日 | 摂社 大元神社百手祭 |
| 2月11日 | 紀元祭 |
| 3月17日 | 祈年祭 |
| 20日 | 末社 清盛神社祭 (舞楽あり)
陵王 |
| 4月15日 | 桃花祭 (舞楽あり)
振鈴、萬歳楽、延喜楽、桃李花、一曲、曾利古、散手、貴徳、陵王、納曾利、長慶子 |
| 16、17、18日 | 桃花祭神能 |
| 4月29日 | 昭和祭 |
| 5月14日 | 講社大祭 |
| 15日 | 講社島廻式 |
| 18日 | 推古天皇祭遙拜式 (舞楽あり)
振鈴、萬歳楽、延喜楽、陵王、納曾利、長慶子 |
| 旧暦6月 5日 | 市立祭 (舞楽あり)
振鈴、萬歳楽、延喜楽、陵王、納曾利、長慶子 |
| 6月17日 | 例祭 |
| 旧暦6月17日 | 管絃祭 |
| 9月18日 | 末社 豊国神社祭 |
| 10月15日 | 菊花祭 (舞楽あり)
振鈴、萬歳楽、延喜楽、賀殿、一曲、曾利古、散手、貴徳、陵王、納曾利、長慶子 |
| 17日 | 神嘗奉祝祭 |
| 11月 3日 | 明治祭 |
| 11月23日 | 新嘗祭 |
| 12月初申日 | 御鎮座祭 |
| 12月23日 | 天長祭 (舞楽あり)
振鈴、万歳楽、延喜楽、陵王、納曾利、長慶子 |
| 31日 | 鎮火祭 |

主祭神

田心姫命
たじりひめのみこと

市杵島姫命
いちきしまひめのみこと

湍津姫命
たぎつひめのみこと

御由緒

当社の御祭神は天照皇大神と素戔鳴尊が高天原で剣玉の御誓をされた時に御出現になった神々で、御皇室の安泰や国家鎮護、又は海上の守護神として古くから尊信を受けられた。宮島には神鳥と共に御降臨され、御鎮座地を探されるにあたり、この地を治める佐伯鞍職公に神勅が下った。鞍職公は神鳥の先導のもと、御祭神と共に島の浦々を巡り、海水のさし引きするこの地を選んで御社殿を建てた。推古天皇御即位の年(593年)であると伝えられる。

その後当社を篤く崇敬した平清盛公が、仁安3年(1168年)に御社殿を寝殿造とし、現在の様な規模に改築した。清盛公の官位が上がるにつれ平家一門のみならず、承安4年(1174年)には後白河法皇の御幸、治承4年(1180年)3月と9月に高倉上皇の御幸があるなど、多くの皇族・貴族が参詣され、都の文化や建築様式がもたらされた。

当社に対する崇敬は、平氏から源氏の世になっても変わることなく、又時代が移り室町時代の足利尊氏や義満、戦国時代の大内氏や毛利氏などからも崇拜された。

松島・天橋立と並び日本三景「安芸の宮島」として知られ、平成8年(1996年)12月にはユネスコの世界文化遺産に登録され、御社殿をはじめ前面の海と背後の弥山が、人類共通の文化遺産として後世に継承されることとなった。

手水鉢

ご参拝いただく前に、清らかな水で手と口をすすぎ身を清める。

作法として先ず柄杓を右で持ち左手を清め、持ち替えて右手を清める。次に左手に水を受け口をすすぐ。再び左手を清め、最後に柄杓を縦に持ち、残った水で柄を洗い流す。



廻廊

御社殿は御本社と客神社、朝座屋、大国社を結ぶ廻廊や橋、舞台等から成り立っていて、国宝又は重要文化財の建物である。先ず参拝入口から国宝である廻廊を進む。この廻廊床板の間には僅かな透き間が空いており、これは高潮時の波による浮力をやわらげたり、又床に上がった海水を抜く為である。先に進むと客神社、御本社があり、二礼二拍手一礼の作法でお参りをさせていただく。更に進むと大国社、天神社、能舞台そして出口に至る。廻廊内は入口から出口へ通り抜けとなっている。

参拝



御本社 (国宝)

檜皮葺で正面には緑色の菱格子戸を建込んだ本殿、これに続いて幣殿・拝殿・祓殿があり、何れも国宝建造物である。御祈禱及び結婚式などは拝殿にて行われる。拝殿内を見上げると化粧屋根裏が2つ見え、最上部の真の棟と、この両脇の母屋が棟の様に見えるところから「三棟造」、「三棟拝殿」とも呼ばれる。

御本社後方の森を後園といい、その中に本瓦葺丹塗の不明門がある。

高舞台 (国宝)

黒漆塗の基壇に朱漆塗の高欄があり、前後には素木の階段がある。平清盛公は大阪の四天王寺から舞楽を当社に移し、それが現在もこの舞台で舞われている。



まろうど

客神社 (国宝)

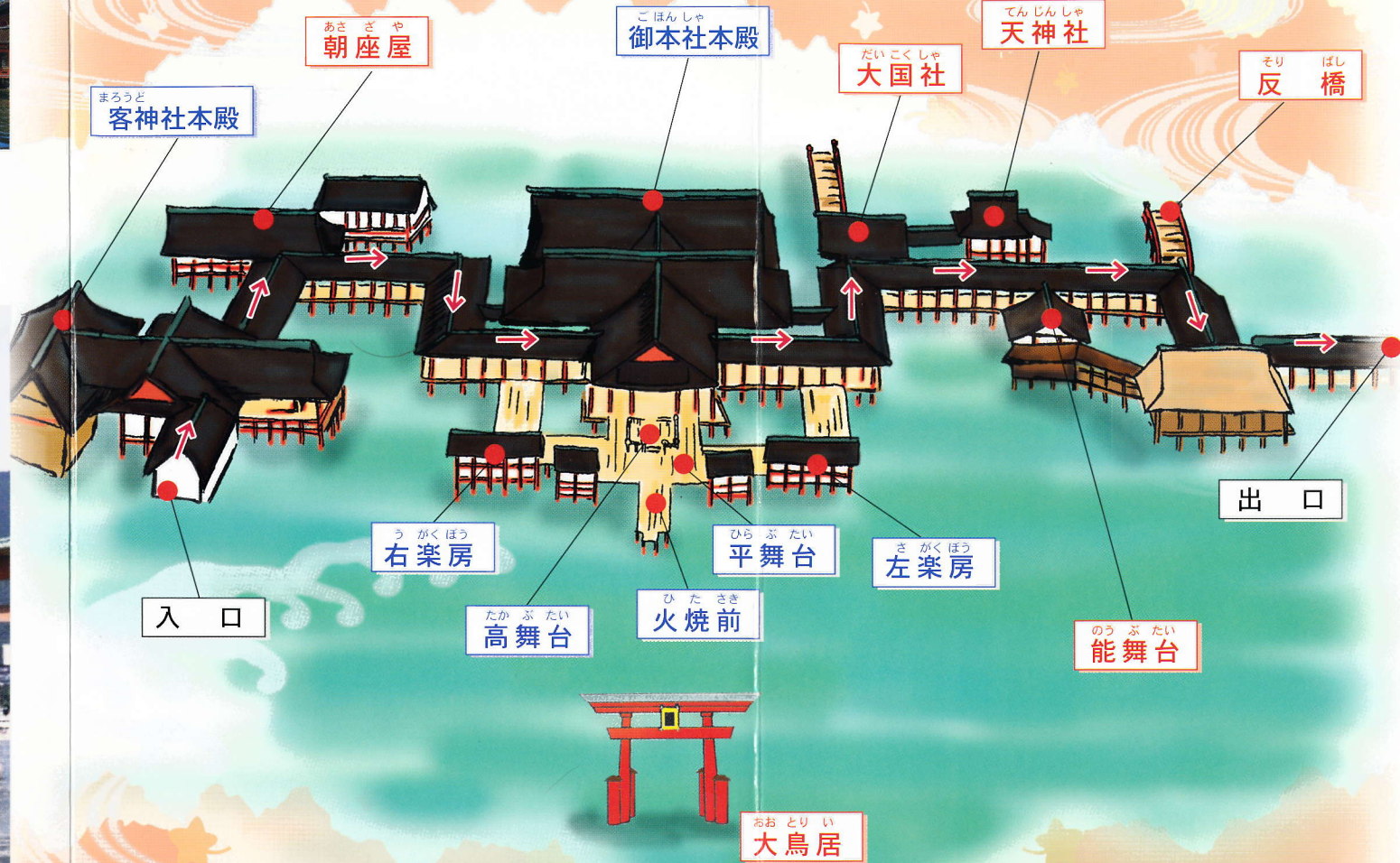
御本社と廻廊で
连接され檜皮
葺の本殿と幣殿・
拜殿・祓殿から
成る。当社の主
な祭典は先ずこ
の御社で始まり、



その後御本社で行われる。御祭神はあめののおしほみみのみこと天忍穗耳命・
あめのほひのみこと天穗日命・あまつひこねのみこと天津彦根命・いくつひこねのみこと活津彦根命・くまのくすびのみこと熊野樟日命。



舞楽 陵王



□ 国 宝 □ 重要文化財